

IGAS2018でミヤコシは高速インクジェットプリンター2台とラベル用オフセット間欠転機1台の3台の機械を出展しました。

高速インクジェットプリンターのうち1台は、水性顔料インクを採用し、ミヤコシならではの毎分2000mの高速で1200×1200dpiを実現した「MJ P20AXW」です。1年のdrupa2016に技術展示した製品で、今回、そこからさらにインク、ヘッドを改良し、新機能を加えています。

高速インクジェットプリンターは解像度600dpiが主流で、可変印刷が要求される帳票類のデータプリント用途に使われていますが、「MJ P20AXW」は解像度が1200dpiに向上し、アンカーコート

なしでコート紙にも印刷できるようになりました。また、アンカーコートを使用することにより細字や画質の再現性が高まり、出版印

## インタビュー

# ミヤコシ

執行役員営業本部  
副本部長兼国際戦略事業部長

天野 剛氏

# 領域を広げる高速「J」

## 品質、生産性両面で進化

ミヤコシはIGAS2018で3種類の印刷機を出展した。高速インクジェットプリンターの2機種はともに1200×1200dpiと解像度が向上。出力速度も高いレベルにまで引き上げられている。領域を広げる高速インクジェットプリンターを中心に、同社執行役員営業本部副本部長兼国際戦略事業部長の天野剛氏に話を伺った。



ミヤコシ 天野剛氏

刷や商業印刷の分野など品質が要求されるデジタル印刷市場に提案していきます。IGAS2018に出展した機種は①アンカー、②Kユニット、③CMYユニット、④乾燥、⑤反転、⑥やマニュアルなどKしか使わない時、メンテナンスボジションにCMYのヘッド

ボックスを格納してノズルが空気に晒さないようにしました。これによりヘッドの寿命を高めることができます。また乾燥機構にドライヤーをダブルで搭載して低温で乾かし、用紙への負担を減らしています。今後はこの機構を標準化していく方針ですが、CMYKのワンボックス型には省スペースのメリットがありますので、お客様の業務に応じてケースバイケースで提供していきます。基礎となったプロトタイプは2年前のdrupa2016ですで紹介しています。IGAS2018の

面構成で、KユニットとCMYユニットを分離しています。高速インクジェットプリンターはモノクロの業務が多く、Kインクの消費量も他のインクに比べて高い傾向にあります。文庫本やマニュアルなどKしか使わない時、メンテナンスボジションにCMYのヘッド



ミヤコシ

展示機はお客様への導入が決まりました。これにより1200×1200dpiの高速インクジェットプリンターとして一つの階段を上がることができたと感じています。もう一台のIGASに出展した高速インクジェットプリンターは水性顔料インクを採用した軟包装印刷用途の「MJ P30AXF」です。今回は技術展示という位置づけでしたが、軟包装に印刷された軟包装製品が出荷されています。

今後はこの機構を標準化していく方針ですが、CMYKのワンボックス型には省スペースのメリットがありますので、お客様の業務に応じてケースバイケースで提供していきます。基礎となったプロトタイプは2年前のdrupa2016ですで紹介しています。IGAS2018の

可能性を含めて出展しました。おそらく、次のdrupaではミヤコシ以外にも多くのメーカーがこの分野に取り組んでいくものと見えています。IGAS2018ではPETへの印刷を演じました。今後は時間をかけてその他の基材とインクの適性、乾燥性、見当性等を評価しながら、100m分の高速出力に目標を定めて開発を進めていく予定です。

三つ目がラベル用オフセット間欠転機の「MLP10L」です。ミヤコシのオフセット印刷機は高品質、高機能でインシャルコストが高いというイメージでしたが、新製品は従来機の高い見当精度を継承したまま、機械の小型化と低価格化を実現しました。国内のラベル印刷市場でも小ロット化が進んでいますので、ニーズは高いと考えています。IGAS2018では給紙+オフセット5色+フレキシオ+ダイロール+カス上げ+巻の構成で出展しました。出展機はお客様に導入し、今後、ユーザー様から頂いた実機の感想をもとに拡販していきます。2年後にはdrupa2020が控えています。まだ、内容は未定ですが、今提供できるベストソリューションに加え、将来を見据えた技術展示の両面からの出展を考えています。ミヤコシとしては情報系の印刷市場に加え、ラベルや軟包装の産業印刷に力を入れていきます。その中で新しい機軸を打ち出していきたいと思えます。